

研究教育業績（2014-2018 年度）

I. 研究業績

1. 主な発表論文

[原著論文]

国際誌

査読あり

- 1) Tokumura T., Yasumoto A. and Kurita T., A validated HPLC pranlukast assay method for cleaning validation on an automatic packaging machine. *Sch. Acad. J. Pharm.*, **8(1)**, 11-14 (2019).
- 2) Tokumura T., Yasumoto A. and Kurita T., A validated HPLC nicotinamide assay method for cleaning validation on an automatic packaging machine. *Sch. Acad. J. Pharm.*, **7(12)**, 470-473 (2018).
- 3) Tokumura T., Yasumoto A. and Kurita T., A validated HPLC ketotifen fumarate assay method for cleaning validation on an automatic packaging machine. *Sch. Acad. J. Pharm.*, **7(11)**, 460-463 (2018).
- 4) Tokumura T., Yasumoto A. and Kurita T., Validated HPLC acetaminophen assay method for cleaning validation on an automatic packaging machine. *Sch. Acad. J. Pharm.*, **7(10)**, 438-441 (2018).
- 5) Tokumura T., Nishio K. and Kurita T., Validated HPLC theophylline assay method for cleaning validation on an automatic packaging machine. *Sch. Acad. J. Pharm.*, **7(9)**, 414-416 (2018).
- 6) Takizawa Y., Koda D., Takahashi M., Komura M., Kizawa M., Kurita T., Nakajima T., Influence of non-alcoholic beverage on gastrointestinal epithelial cells. *Sch. Acad. J. Pharm.*, **7(5)**, 203-207 (2018).
- 7) Tokumura T., Yoshida N., Mori-Yasumoto K., Shirota O. and Kurita T., Degradation rates and products of fluticasone propionate in alkaline solutions. *J. of Pharm. Anal.*, **7(5)**, 297-302 (2017).
- 8) Matsuyama S, Kurita T. and Tokumura T., Degradation Rate of Ebastine in an aqueous solution at pH 1.2 and the effects of cyclodextrins. *Sch. Acad. J. Pharm.*, **5(4)**, 87-91 (2016).
- 9) Tokumura T., Kawakami M., Kitada R. and Kurita T., Validated Assay Method for Fexofenadine Hydrochloride in Powder Preparations of Allegra® 60 mg Tablets to Develop a New Method for Grinding Tablets on Dispensing in Japan. *Sch. Acad. J. Pharm.*, **5(8)**, 359-362 (2016).
- 10) Tokumura T., Isaka H., Kanou M., Miyazaki E., Kaneko N. and Kurita T., An inclusion complex of fluticasone propionate with γ -cyclodextrin in aqueous solution and in a solid state. *Drug Del. Sci. Tech.*, **26**, 24-27 (2015).
- 11) Kino K., Nakatsuma A., Nochi H., Kiriya Y., Kurita T., Kobayashi T. and Miyazawa H., Commentary on the Phototoxicity and Absorption of Vitamin B₂ and Its Degradation Product, Lumichrome (Commentary). *Pharm Anal Acta*, **6(8)**, doi: 10.4172/21532435.1000403 (2015).
- 12) Tokumura T., Kawakami M., Kitada R., Yamamoto H., Yamamoto H. and Kurita T., Determination of Sildenafil Citrate in Powder Preparations prepared from Revatio Tablets 20 mg for Infants with Persistent Pulmonary Hypertension of the Newborn. *Sch. Acad. J. Pharm.*,

邦文誌

査読あり

- 1) 川上充希, 北田里華, 栗田拓朗, 徳村忠一, 小児用錠剤粉碎調剤時の乳鉢・乳棒への付着を防止する方法, *YAKUGAKU ZASSHI*, **137(8)**, 1017-1025 (2017).

[総説]

[著書]

[その他]

- 1) Medication liquid supporting jig and method of applying medication to micro-needle using same., US Patent 9067048B2 (2015) and European Patent 2422836A4 (2015).
- 2) 薬液担持用治具とそれを用いたマイクロニードルへの薬剤塗布方法, 特許 5514807 (2014).

2. 主な学会発表

[国際学会]

[国内学会]

- 1) 石山萌子, 坂森あすか, 小嶋ひかる, 草野滉平, 栗田拓朗, 瀧沢裕輔, 中島孝則, 添加剤から構成されるイオン液体に対するクルクミン溶解性の評価, 日本薬学会 第 139 年会, 3 月, 千葉 (2019).
- 2) 伊藤創馬, 大戸智絵, 菊池蘭, 太田美鈴, 日高慎二, 瀧沢裕輔, 栗田拓朗, 中島孝則, ベルソムラ® 錠の一包化に向けた保存条件の検討, 日本薬学会 第 139 年会, 3 月, 千葉 (2019).
- 3) 瀧沢裕輔, 高橋優斗, 宮部耕佑, 栗田拓朗, 中島孝則, 経口投与製剤の溶出性および膜透過性に対する併用薬の影響～ミコフェノール酸モフェチルを用いた検討～, 日本薬学会 第 139 年会, 千葉 (2019).
- 4) 村上亜希穂, 栗田拓朗, 中妻章, 池田博昭, 二宮昌樹, 徳村忠一, 調剤に使用した器具と機器表面に残留した乳糖量の蒸発光散乱検出器を用いた HPLC による測定, 日本薬学会 第 139 年会, 千葉 (2019).
- 5) 橋本実菜, 齊藤大悟, 朝優佑, 間野綾菜, 澤口能一, 瀧沢裕輔, 栗田拓朗, 佐竹清, 岩田政則, 中島孝則, アルギン酸によるウリナスタチン膈坐剤徐放化の検討, 日本薬学会 第 138 年会, 3 月, 金沢 (2018).
- 6) 谷岡達樹, 栗田拓朗, 中妻章, 横田ひとみ, 二宮昌樹, 徳村忠一, 自動分割分包機における吸引清掃の効果, 第 56 回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会, 10 月, 徳島 (2017).
- 7) 山西慶二郎, 栗田拓朗, 森田豊, 徳村忠一, 溶出試験の観点から見る簡易懸濁施行時の溶出性, 第 56 回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会, 10 月, 徳島 (2017).
- 8) 松山盛士, 栗田拓朗, 徳村忠一, 湿式粉碎での γ -シクロデキストリンのクルクミンへの効果, 第 56 回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会, 10 月, 徳島 (2017).
- 9) 井宮博昭, 栗田拓朗, 徳村忠一, 円盤型自動分割分包機から肺に到達する薬物粒子は飛散するの
か? : アセトアミノフェンでの検証, 第 56 回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国
四国支部学術大会, 10 月, 徳島 (2017).
- 10) 堤祐二, 栗田拓朗, 中妻章, 横田ひとみ, 二宮昌樹, 徳村忠一, 自動分割分包機の洗浄剤の効果に

対する洗浄剤中薬物量からの考察と洗浄剤残留量の測定，第 56 回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会，10 月，徳島（2017）。

- 11) 栗田拓朗，松山盛士，徳村忠一，酸性液中におけるエバスチンおよびシクロデキストリンの安定性，第 33 回シクロデキストリンシンポジウム，9 月，高松（2016）。
- 12) 徳村忠一，井坂ひとみ，加納愛美，宮崎英梨，金子菜都美，栗田拓朗，潰瘍性大腸炎用注腸剤開発を目的としたフルチカゾンプロピオン酸エステルの物性測定とシクロデキストリン包接化合物の調製，第 33 回シクロデキストリンシンポジウム，9 月，高松（2016）。
- 13) 柴田明香，栗田拓朗，徳村忠一，アレンドロン酸ナトリウム含有経口ゼリー剤からのアレンドロン酸ナトリウムの初期溶出性の評価とその制御，日本薬学会 第 136 年会，3 月，横浜（2016）。
- 14) 安元あい，中妻章，横田ひとみ，二宮昌樹，栗田拓朗，徳村忠一，自動分割分包機に残留する製剤量に関する検討：テオドール DS20%、ゾンネ、アセトアミノフェン原末、オノン DS10%、ザジテン DS0.1%における製剤残留量の比較，日本薬学会 第 136 年会，3 月，横浜（2016）。
- 15) 野島梨華子，栗田拓朗，森田豊，徳村忠一，カンデサルタンシレキセチル製剤の溶出性に対する簡易懸濁法の影響について，日本薬学会 第 136 年会，3 月，横浜（2016）。
- 16) 北田里華，川上充希，山本秀紀，山本宏，栗田拓朗，徳村忠一，錠剤の粉碎調剤に対する最適化実験，日本薬学会 第 136 年会，3 月，横浜（2016）。
- 17) 跡部一孝，栗田拓朗，榊原紀和，加藤善久，薬剤耐性癌細胞におけるドキシソルビシン・クルクミン封入リポソームの効果に関する検討，日本薬学会 第 136 年会，3 月，横浜（2016）。
- 18) 松元和樹，栗田拓朗，徳村忠一，ドネペジル塩酸塩のコーンスターチ及び結晶セルロースへの吸着，日本薬学会 第 135 年会，3 月，神戸（2015）。
- 19) 綾野将司，栗田拓朗，森田豊，徳村忠一，簡易懸濁法が錠剤の溶出性に与える影響について，日本薬学会 第 135 年会，3 月，神戸（2015）。
- 20) 宮城佳紀，栗田拓朗，中妻章，横田ひとみ，二宮昌樹，徳村忠一，自動分割分包機の洗浄バリデーションに関する検討：テオドール DS 20% 分包時のテオフィリン残留量の測定と 2 種類の乳糖の洗浄効果，日本薬学会 第 135 年会，3 月，神戸（2015）。
- 21) 松山盛士，栗田拓朗，徳村忠一，蒸発光散乱検出器を装着した HPLC による水溶液中のシクロデキストリン類の安定性評価：pH と温度の影響，日本薬学会 第 135 年会，3 月，神戸（2015）。
- 22) 跡部一孝，栗田拓朗，榊原紀和，牧野悠治，加藤善久，ドキシソルビシン・クルクミン封入リポソームによる抗腫瘍効果の検討，日本薬学会 第 135 年会，3 月，神戸（2015）。
- 23) 原田志保，栗田拓朗，安元（森）加奈未，代田 修，徳村忠一，フルチカゾンプロピオン酸エステルのアルカリ溶液中の分解速度と分解物，日本薬剤学会 第 29 年会，5 月，大宮（2014）。

3. その他特筆すべき研究業績

II. 教育業績

1. 担当授業科目

2018 年度

- 1) 製剤材料の物性（薬学科 2 年）
- 2) 薬物動態・製剤実習（薬学科 4 年）
- 3) 薬学総合演習 1（薬学科 4 年）3 コマ

4) 薬学総合演習 2 (薬学科 6 年) 5 コマ

2017 年度

5) 製剤材料の物性 (薬学科 2 年)

6) 薬剤系実習 (薬学科 4 年)

7) 薬学総合演習 1 (薬学科 4 年) 4 コマ

8) 薬学総合演習 2 (薬学科 6 年) 4 コマ

(以下徳島文理大学香川薬学部での実績)

2016 年度

1) 製剤学 3 (薬学科 3 年)

2) 特許法 (薬科学科 4 年)

3) 薬学実習 3B (薬学科 3 年)

4) 医薬品開発学 1 (薬学科 4 年)

5) アドバンスト臨床開発実習 (薬学科 5 年)

6) 薬学総合演習 (薬学科 6 年) 9 コマ

7) 卒業研究

8) 特別実習

2015 年度

1) 薬学数学入門 (薬学科 1 年)

2) 製剤学 3 (薬学科 3 年)

3) 特許法 (薬科学科 4 年)

4) 薬学数学入門 (薬学科 1 年)

5) 薬学実習 3B (薬学科 3 年)

6) 医薬品開発学 1 (薬学科 4 年)

7) アドバンスト臨床開発実習 (薬学科 5 年)

8) 薬学総合演習 (薬学科 6 年) 10 コマ

9) 卒業研究

10) 特別実習

2014 年度

1) 製剤学 3 (薬学科 3 年)

2) 薬学実習 3B (薬学科 3 年)

3) アドバンスト臨床開発実習 (薬学科 5 年)

4) 薬学総合演習 (薬学科 6 年) 11 コマ

5) 卒業研究

6) 特別実習

2. その他特筆すべき教育業績